

平成30年度事業目標に対する主な取り組みと実績

一 各事業所の取り組み

1. 特別養護老人ホームしろみの取り組み

(1) ユニットリーダー研修実地研修施設としての取り組み

- ① ユニットリーダー研修実地研修施設として2年目を迎え、8月に更新調査を受け、合格。研修生17名延68人の受入を行った。
- ② 主任等を中心に工程表に基づき、研修生受入れまでに必要な取組項目・役割分担等の受入準備を行った。また、毎月のリーダー会議において、ユニットケアの勉強会や24時間シート等の点検を行った。
- ③ 研修生に対し、ユニットリーダーを中心にユニットケアの根拠・あり方など適切な実地指導を行うことができ、リーダーの資質向上にもつなげることができた。

(2) 24時間シートの一覧化・ケース記録の整備(暮らしのデータの充実)

- ① 入居者それぞれの暮らしをサポートする24時間シートとケース記録について、各ユニット1事例の検討訓練を行い、暮らしのデータの充実を図ることができた。
- ② 多職種協働で定期的な検討を重ね、記録の書き方等について施設内研修を行い、記録の統一を図った。

(3) 介護機器の活用とOJT(新任教育)・グリーンケア

- ① 介護機器のデモを行い、利用者の苦痛軽減と職員の安全確保のために操作方法や活用方法について勉強会を行うことができた。
- ② 新任職員(高校生卒・社会人)育成(課業の充実)や定着のため、OJT研修の担当職員体制を充実したことで、平成30年度4月入職職員全員が2年目を迎えることができた。
- ③ 看取り介護後、担当した介護職員を中心にグリーンケアを行い、入居者に対する思いやケアについての振り返りを行い、職員の心的ストレスの軽減を図った。

(4) 各ユニットの取り組み

① 草原ユニット

- ・24時間シートを定期的に見直し、入居者へのケアの統一や新任教育に活用することができた。
- ・リーダー研修受入施設として実習生を受入れることで、個別ケアへの意識を更に高めることができた。

② あかねユニット

- ・毎月ユニットミーティング後に24時間シートの更新を行うことができ、24時間シートを充実することができた。
- ・ユニット職員がリーダー研修受入施設としての自覚をもち、実習生に対応することができた。

③ 山なみユニット

- ・新任職員やケアの統一のため、意識して24時間シートを活用することができた。
- ・リーダー研修受入施設としての自覚をもち、研修生を受入れることができた。

④ こかげユニット

- ・ユニットミーティングにおいては、24時間シートを基に、情報の共有や検討を行うことができた。

⑤ 朝ぎりユニット

- ・新任職員に対し24時間シートを活用し、研修やフォローを行うことができた。
- ・実習生の研修発表会でユニット業務の外部評価を行ってもらうことで、ユニット職員が新たな視点での気づきを受けることができた。
- ・24時間シートの更新者を決めたことにより、毎月更新することができた。

2. 短期入所生活介護しろみの取り組み

- (1) 利用者・家族の意向に沿った支援並びにサービスの提供を多職種で行うことができた。一方、24時間シートへの反映・活用が十分ではなかった。
- (2) 利用者の生活機能向上につながる機能訓練に意識して取り組むことにより、ADL維持に努めた。
- (3) 居宅支援部(短期・通所しろみ・通所ほほえみ)が連携し、営業活動を行うことができた。

3. デイサービスセンターしろみ・ほほえみの取り組み

(1) 事業所ごとの取り組み

① しろみ

- ・サービス担当者会議や家族、利用者からの情報や意向を共有し、多職種と連携を図り、在宅生活を継続するために利用者のニーズにそった個別ケアを提供することができた。
- ・しろみ行事への参加や日帰り旅行、グループ体操等を通して、心身機能の維持・向上に努めることができた。

② ほほえみ

- ・家族や他事業所と利用者の状態や現状の情報交換を行い、利用者のニーズにそったケアを提供し、在宅生活の維持に努めた。
- ・地域との交流会への参加や喫茶しろみの利用を通じ、地域の方々と交流を図り、社会参加への機会を設けることができた。

4. ケアプランセンターしるみ

- (1)事業所内カンファレンスにおいて、ケアプラン検討を行い、支援の標準化と経験の浅いケアマネージャーの不安を解消できるよう努め、利用者の状態や環境に適合するケアプランを作成することができた。
- (2)地域行事への参加や包括支援センターが主催する事例検討会に参加する等、地域交流や連携を図ることができた。

5. グループホーム華の苑

- (1)平成30年10月1日、社会福祉法人見松会に経営移管した。
- (2)民家改造型施設で9名の利用者が、地域の中で今までの生活の継続ができるよう、ケアの見直しや検討を行い、個別ケアの定着を図った。

6. 職種別の取り組み

(1)看護職員

- ・ケース記録を活用し、多職種との情報共有を密に行うことができた。また、家族に対し正確な情報を確実に伝え、適切な対応に繋げることができた。
- ・家族や多職種と密に情報共有を行うことで、その人らしい人生を全うし、安らかな最期を迎えることができた。

(2)機能訓練指導員

- ・利用者一人ひとりに対し、生活機能に重点を置いた個別機能訓練計画を立案、実施することができた。利用者の半数以上は機能維持することができたが、看取り期へ移行し機能低下がみられる利用者については、その都度、機能程度に応じた計画となるよう修正を加えた。
- ・担当者会議への参加や自宅訪問を行い、生活環境や介護状況を把握し、家族からの情報を反映した機能訓練のプログラムを作成することができた。
- ・訓練内容については、利用者自身が選択できるよう複数準備し、訓練及び生活向上意欲を増進できるよう努めた。

(3)歯科衛生士

- ・歯科医師に口腔内の問題について相談する機会を多く持つ等、連携強化に努めた。
- ・ユニット職員へ口腔内の状態の伝達は確実に行うことができたが、課題解決に向けての検討面が十分ではなかった。

(4)栄養管理職員

- ・食事提供に調理済み料理を導入したことで、利用者の起床時間に合わせた提供を行うことができ、利用者の満足度につなげることができた。
- ・利用者が食事されているところへ訪問し、多職種と情報共有しながら個人の嗜好に合わせた食事提供につなげるように努めた。

(5)運転士

- ・送迎前の車両点検や整備を毎日実施し、利用者の安全な送迎に努め、気持ち良く乗車できるよう送迎後の車内清掃を行うことができた。
- ・送迎時には利用者が安心して利用できるよう、利用者の心身の状態把握などの情報共有に努め、利用者・家族に対し、笑顔で挨拶を行うことができた。

(6)環境整備職員

- ・利用者が快適な生活が送れるよう、隅々まで清掃を行うことができた。
- ・多職種と連携し、汚れた場所や棚拭き等清潔に保てるように心がけ、清掃を行うことができた。
- ・四季を通して色とりどりの花を庭園へ植樹し、利用者や地域の方々に季節感を味わっていただくことができた。

(7)事務職員

- ・担当業務について業務改善を行い、効率のよい事務処理を確立することができた。
- ・施設窓口として、利用者や家族とのかかわりや電話連絡において事業部との連携に不十分な点も見受けられた。
- ・委員会や部会での議事録作成や集計等の業務を担当することで、各委員会の役割と実働を把握することができた。

7. 家族懇談会の実施

(1)施設部(特養)

6月30日(土)、①平成30年介護保険改正の説明・平成29年度実績報告等②ご家族からの事前アンケートを基に意見交換を行い、親睦を深めることができた。

(2)居宅支援部(短期・通所・居宅)

家族教育及び家族支援の提供の場である認知症相談会や認知症家族教室(5月、11月、1月に開催)をあきやま病院と協同で開催し、医療と福祉の連携を深めることができた。また、認知症のケアに携わる関係機関を対象にした研修会にも参加し、知識の向上と他事業所との情報交換に努めた。

8. 職員教育

- (1) 新任職員研修を3月と11月に行い、法人の理念・方針等採用時に7日間の研修を行った。また、採用後6ヵ月経過した新任職員にフォローアップ研修を行い、外部講師を招いてのストレスケアや研修担当職員との意見交換を行い職員定着のための取組みを行った。
- (2) サブリーダーを対象にした中堅職員研修を外部講師を招いて実施。中堅職員に求められる役割や行動変容等の講義を受け、組織における中堅職員の意志向上と自覚を確立するための勉強会を行った。

二 地域との親睦・交流及び地域福祉の向上

1. 喫茶しろみ

- (1) 第1木・第3水曜日に開店し、入居者との交流を深めるため、更に地域住民の方々への参加をお願いした。
- (2) 第1木曜日は、ボランティアの方々による喫茶店の運営を行うことができた。

2. 交流並びに地域福祉の向上

- (1) 北諫早小学校の児童との定期的なふれあい交流をはじめ、様々な団体との交流を行うことができた。
- (2) 平成30年6月12日、諫早市多良見地区民生委員9名の施設見学の受入れを行った。日頃から地域住民の生活状況の把握等を行っている民生委員との情報交換では、福祉施設利用への流れや民生委員の疑問等に回答する中で、地域の高齢者世帯の生活状況を知ることができた。
- (3) 外部ボランティアによるサークル活動(カラオケ・手芸・おしゃれ・車いすレクダンス)を充実することができた。

三 介護報酬の動向

1. 特別養護老人ホームしろみ

- (1) 介護報酬は前年度の約24,690万円から約25,143万円へ、約453万円増加した。また、稼働率は前年度の99.1%から98.9%へ減少した。
- (2) 長期入院へとつながらないように入院先の病院や家族との連携強化に努め、9月・10月は短期間の入院で施設での受け入れができた。
- (3) 平均介護度は前年度の4.1から増減なし。

2. 短期入所生活介護しろみ

- (1) 介護報酬は前年度の約9,099万円から約8,672万円へ、約427万円減少した。また、稼働率は前年度の91.2%から86.7%へ減少した。
- (2) 目標稼働率を設定し、積極的に営業活動や情報提供を行ったが、目標値を達成することができなかった。

3. デイサービスセンターしろみ

- (1) 介護報酬は前年度の約5,481万円から約5,268万円へ、約213万円減少した。また、稼働率は前年度の76.3%から77.0%へ増加した。
- (2) 夏季の猛暑により体調を崩され、入院や自宅療養のキャンセルが多く、目標の稼働率を達成することができなかった。
- (3) 多職種共同で利用者のアセスメントを行い、心身の状況等に応じて機能訓練を実施し、日常生活を営むために必要な機能維持・回復に努めた。

4. デイサービスセンターしろみ ほほえみ

- (1) 介護報酬は前年度の約2,241万円から約1,913万円へ、約328万円減少した。また、稼働率は前年度の51.6%から41.3%へ減少した。
- (2) 利用者の重度化により家族の介護負担軽減のため、他サービスへ移行したことに伴い利用回数が減少し、目標を達成することができなかった。

5. ケアプランセンターしろみ

- (1) 介護報酬は前年度の約1,058万円から約1,216万円へ、約158万円増加した。また、稼働率は前年度の61.7%から72.2%へ増加した。
- (2) 地域包括支援センターの事例検討会や認知症家族会等との連携により相談件数は増加したが、目標の稼働率は達成できなかった。

6. グループホーム華の苑

- (1) 平成30年10月から平成31年3月までの介護報酬は約1,870万円、稼働率は97.3%となった。
- (2) 利用者の入院により稼働率が減少した月があった。